

病院長就任の挨拶

4月1日より病院長を担当する志波です。就任のご挨拶を申し上げます。

久留米大学は昭和3年(1928年)開学より、一貫して地域医療に貢献することを旨としてまいりました。一昨年、医療連携のさらなる充実のため、坂本前病院長主導により、久留米大学関連医療施設協議会が設けられました。現在の登録医療機関は128で、久留米大学病院、久留米大学医療センター、そして11の久留米大学教育関連病院を含めて構成されています。新専門医プログラムは、これらの施設を中心とした病院群を形成し、地域医療へのさらなる貢献を目指します。

開始から2年を過ぎた紹介予約システムの利用は、全紹介患者数の50%に届くところまで周知され、診療科によっては80%を超える科もいくつかみられます。しかしながら、まだまだ解決すべき点もあり、これからも皆様からのご意見を頂戴しながら、より円滑な連携を目指して、医療連携センターを窓口としたシステム構築を目指してまいります。

伝統を守るには、時代に対応した迅速なシステムの改革と、時代を先取りした先進的な医療に取り組む新たな挑戦の継続の必要性を実感しています。そのような姿勢や気概が、若い医師や職員全体のモチベーションにも繋がるものと信じています。諸先輩方が進めてこられた改革の流れを途切れさせることなく、職員一丸となり努力して行く所存です。今後とも、久留米大学病院へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成28年4月
病院長 志波 直人

病院執行部体制

病院長	志波 直人 (新)	
副院長	八木 実	・ 上野 高史
	山川 良治 (新)	・ 鳥村 拓司 (新)
	田中 芳明 (新)	・ 野田 順子

私たちの理念

人と地球にやさしい、いのちを慈しむ医療

私たちのめざす医療

1. 患者中心の医療
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
2. 共生の医療
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
3. 高度で安全なチーム医療
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
4. 地域と共に歩む医療
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
5. 優れた医療人の育成
教育機関として高水準の医療技術と思いやりを備えた医療人の育成に努めます。

CONTENTS

- 病院長就任の挨拶 病院長 志波 直人
- 医療連携センター長の挨拶
医療連携センター長 鳥村 拓司
- 平成28年度診療目標
- 医療連携センターの業務内容とスタッフ紹介
- 新任診療部長紹介
- TOPICS



医療連携センター長の挨拶

この度、志波病院長の後任として医療連携センター長を拝命しました消化器内科の鳥村拓司と申します。

久留米大学病院医療連携センターは、高度医療を担う「特定機能病院」として、地域医療機関との連携を通じ、患者さんの治療の継続性の確保と医療情報の共有化を図り、地域医療の発展に寄与することを目標に掲げ、地域の医療機関との「病診連携」、「病病連携」の充実、円滑化に取り組んでまいりました。しかし、その成果は未だ道半ばというのが現状かと考えます。

4月からは、より一層地域医療機関との連携を強化すべく「日本で一番患者さんを紹介しやすい大学病院」となることを目指して職員一同、一丸となって頑張っている所存です。関係各位におかれましてはより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますと共に、一人でも多くの患者さんを久留米大学病院へご紹介いただきますよう併せてお願い申し上げます。



平成28年 4月
医療連携センター長 鳥村 拓司

平成28年度 診療目標

1. 特定機能病院にふさわしい医療体制の充実

- ・ 高度医療の提供、チーム医療の推進
- ・ 医療安全・危機管理体制の徹底
- ・ 地域医療施設との連携強化

2. 院内の好循環を生み出す勤務環境の整備

- ・ 風通しの良好な職場環境の整備
- ・ 仕事の成果とモチベーションの向上
- ・ 改善・改革に向けた意識（情報）の共有
- ・ 病院経営への積極的（主体的）参画

3. 医療資源の有効活用

- ・ 無駄の少ない、効果的な人員配置の強化
- ・ 医療材料・薬剤、医療機器の適切な使用及び購入・更新

4. 効率的な病床運用

- ・ 新入院患者増と平均在院日数減を前提とした病床利用率90%の達成
- ・ 包括算定における入院期間Ⅱまでの退院患者割合65%以上の達成

医療連携センターの目標

高度医療を担う「特定機能病院」として、地域医療機関との連携を通じ、患者の治療の継続性の確保と医療情報の共有化を図り、地域医療の発展に寄与する。

医療連携センターの業務方針

1. 患者の福利増進のため権利と人格を尊重し、問題解決のため誠実に対応する
2. 地域医療機関と顔の見える関係を構築し、地域のニーズに応える
3. センター職員としての専門的な立場からチーム医療に貢献する
4. センター職員としての専門的な立場から病院経営に貢献する
5. 医療安全と危機管理及び個人情報保護の徹底に努める
6. 患者が最適・最良の選択ができるよう、医療相談員としての資質向上に努める

医療連携センターの業務内容とスタッフ紹介

連携事務担当 (室長1名、事務7名)

- ◆連携業務に関する情報提供・広報活動
- ◆紹介・逆紹介データ管理
- ◆関連医療機関連絡調整
- ◆紹介患者の外来診療予約
(紹介予約センター)



前列左より
松本三千代、末安ひとみ、久木原昇 (室長)、中島理世、井村好美
二列目左より
(紹介予約センター) 下河喜代香、田中明美、松浦 忍

副センター長

(副院長・看護部長)
野田順子



ベッドコントロール担当

(副看護部長1名、看護師4名)

- ◆病床管理
入退院状況把握・急患受入対応
- ◆入退院患者支援業務



前列左より
川辺佳子、松竹敬子 (副看護部長)、吉村奈保子
二列目左より
高木泰子、郷田佐代子

退院支援・医療福祉相談担当

(看護師3名、MSW6名)

- ◆退院支援 (在宅・転院)
- ◆社会資源紹介、患者受診・受療援助
- ◆経済的・心理的・社会的問題等の解決援助
- ◆院内外からの医療相談



前列左より
(看護師) 川口真理、中村寿賀子、石橋紀子、
(MSW) 青木正恵、花島りか
二列目左より
(MSW) 神代 潤、住吉美香、大里文誉、堤 慶子

【がん相談支援センター】(看護師2名)

- ◆がん相談、セカンドオピニオン外来調整

【認知症医療センター】(PSW1名)

- ◆認知症に関する相談支援



左より (看護師) 原 美穂、廣畑紀世、(PSW) 霍久裕貴

新任診療部長紹介

- 1.出身大学(卒業年)
- 2.専門の臨床領域
- 3.ご挨拶

平成28年4月1日付就任



教授
たかす おさむ
高須 修

高度救命救急センター

- 1.鳥取大学(平成3年卒業)
- 2.救急・集中治療
- 3.救急医療を担う1施設として、特に外傷や脳卒中、心血管疾患、熱傷、中毒、その他特殊疾患の重症患者の受け入れとともに、ドクターヘリやワークステーションドクターカーによる病院前救急診療に積極的に取り組んでいます。24時間、救急医療の質を低下させることなく救急医療を展開するには、地域の先生方のご協力のもと、病院間の連携をはかることが重要と考えます。皆様からご指導、ご協力を頂けますようお願い申し上げます。

平成28年4月1日付就任



准教授
あきば じゅん
秋葉 純

病理部

- 1.久留米大学(平成9年卒業)
- 2.人体病理、肝臓病理、消化管病理
- 3.病理診断科・病理部では、従来の形態的な観察は元より、免疫組織化学、遺伝子学的検索を積極的に取り入れることにより、さらなる診断の質の向上を目指して、日々業務に励んでいます。種々のコンパニオン診断(特定の薬の効果を予測する検査とその評価)を自施設内で行うことで、迅速に結果を返却できる環境が整っています。現在、筑後地区を主体とする複数の病院と連携関係にあります。より連携を密にし、地域医療に貢献できるよう努力していく所存です。皆様からのご指導・ご協力を頂ければ幸いと存じます。

TOPICS

●病床再編について

平成28年3月23日より病院本館東棟8階48床を休床とする病床再編を行いました。これに伴い稼働病床数が973床に変更になります。当該病棟を使用していた放射線科は東棟9階へ、内分泌代謝内科は東棟13階へ移転いたしました。今後の病床運用においては空床利用を促進するため診療科毎の病棟配置を見直すことを検討しています。

●選定療養費の改定について

平成28年度診療報酬改定における「紹介状なしの大病院受診時の定額負担の導入」に伴い、初診時の選定療養費を下記のとおり改定しました。

【平成28年3月31日まで】 初診時(医科・歯科共通) 3,240円(税込み)

【平成28年4月1日から】 初診時(医科・歯科共通) 5,400円(税込み)

※診療情報提供書(紹介状)によりご紹介いただく患者さんの負担はありません。

なお、再診時の選定療養費(他の医療機関の受診を紹介したにも関わらず、本院での受診を希望する場合に徴収する費用)につきましては、運用方法の検討等を行った上で徴収を開始する予定であり、徴収開始時期は未定です。

編集後記(熊本地震被災地域の医療機関の皆様に向けて)

4月14日からの連日の地震により、熊本県を中心に深刻な被害が出ているなか、被災地域と周辺各医療機関の皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げますとともに、患者支援にご尽力されていることに敬意を表するところでございます。当院でも、被災地からの患者さんの受け入れや、医療支援活動を継続して行っている所存です。病院職員一同、震災の収束と、お住まいの地域が一日も早く復旧し、安全で健やかな日常を取り戻されるよう、心よりお祈りしております。

(医療連携センター 末安ひとみ)